

「話のたねのテーブル」より

気になる“植物の絶滅危惧種” (1)

廣田伸七

急速な都市化で自然が少なくなるにつれて、野生植物の絶滅種、絶滅危惧種、危急種が増えている。これらの植物は、環境の変化に弱い植物が多い。たとえば、湿地や湿原に生育する食虫植物が代表的なものである。

イシモチソウ<モウセンゴケ科>

絶滅危惧種。多年生の食虫植物。やや湿った原野や湿地に生育する。地中に塊茎があり、茎が直立し高さ10～30cm。葉身は三日月形で長さ2～3mm、表面と縁に腺毛があり、粘液を分泌して虫を捕食する。5～6月に茎先に白色の花をつける。葉で地面をこすると小石が付着することから石持草と名付けられた。

ナガバノイシモチソウ<モウセンゴケ科>

絶滅危惧種。1年生の食虫植物。湿地や

原野に生育する。地中に塊茎はない。茎は直立し、高さ7～15cm。葉は長さ4～6cmの細い線形で表面に腺毛が密生し、これで虫を捕食する。7～8月に茎に花柄を出して白色の花をつける。

コモウセンゴケ<モウセンゴケ科>

絶滅危惧種。多年生の食虫植物。湿り気のある原野や湿地に生育する。葉は短い柄があり、束生してロゼット状になり、毎年古い葉の上に新葉を出すので、多いものは六重～八重になる。葉身はへら形、長さ1.5～2.5cmで全縁。葉の両面に長い腺毛を密生し、粘液を分泌して虫を捕食する。3～6月に高さ5～15cmの花茎を直立し、先に白色の花を総状につける。

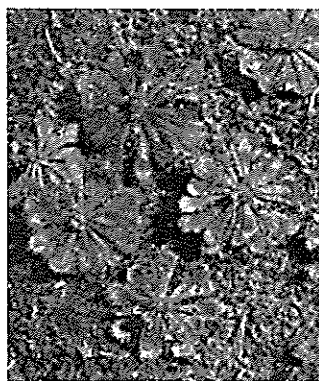
(話のたねのテーブル No.227 より)



▲イシモチソウ



▲ナガバノイシモチソウ



▲コモウセンゴケ

公益財団法人日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03) 3832-4188 (代)
FAX (03) 3833-1807
<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 理事長 小川 奎
発行人 植調編集印刷事務所 元村 廣司

発行所 東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
植調編集印刷事務所
電話 (03) 3833-1821 (代)
FAX (03) 3833-1665

平成26年1月発行定価525円(本体500円+消費税25円)
植調第47巻第10号 (送料270円)

印刷所 (株)ネットワン